

2021年度行動計画—年度末実績(1ページ)

										2022年3月末予定の進捗状況及び次年度に向けた課題 評価は、○＝順調に進んでいる、△＝やや遅れている、×＝あまり進んでいない				
大項目	小項目	実施項目	行動計画	リーダ	担当部署	関連部署	KPI	数値目標 (現状/年度目標/最終目標)	KPI 数値	2021年度末の実績	評価	2022年度に向けた課題、発展の方向など (Vision Compass2030対応含む)		
1. 独自性・優位性ある教育力の向上と内部質保証	(1) 時代と社会の要請に応えるテクノロジスト育成教育の質の向上	1) 教学マネジメントを促進する体制の確立	① 教学改革の柱、新カリキュラム移行に向け、関係委員会と連携し準備推進	横山	教学マネジメント室	教務委員会 教務課				教務委員会と連携、部会やWGでの取り組みにより移行準備が完了	○	新制度の実施を関係委員会と連携して、検証改善を実施する。		
		2) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの明確化・共有	① 情報メカトロニクス学科名称変更に伴い、カリキュラム・ポリシー(OP)・エデュケーションル・ポリシーの点検 ② 新制度(進級制度等)の実施と、2022年度から実施予定の制度確定		教学マネジメント室	各学科 教務課	必修科目合格率 選択科目合格率	100% 85%	98.9% 98.4%	進級制度の実施に向け制度の見直しを実施 CAP制度の見直しを実施	○	新カリキュラムの実施に伴い、OP/EPを検証する。 進級制度の点検・詳細設計を実施する。		
		3) AI、IoT等の新技術にも対応できる将来のテクノロジストを育成するためのカリキュラム改革	① Society5.0に対応できる人材育成のための教育内容検討 ② 新カリキュラム実施に合わせ、ナンバリング等見直し ③ 教養科目の具体的実施方法、遠隔授業の活用、魅力ある授業の構築への内容を検討。		教学マネジメント室	各学科				データサイエンス・リテラシー科目の導入を教養教育で実施する方針を決定	○	データサイエンス・リテラシー科目の導入を教養教育で実施		
		4) 教学IRを活用した学修成果の可視化、アセスメント・ポリシーの明示と教育サポートシステムの充実	① アセスメント・ポリシーに基づく、PDCAを実施 ② 学修成果の可視化を図る(ルーブリックの試行)。 ③ 入学前教育、入学前課題について検討		教学マネジメント室	各学科 認定評価室				FD研修会のテーマを授業アンケートの活用による授業改善とし、翌年度の改善計画をティーチング・ポートフォリオへ記載	○	改善計画を共有し、全学の授業改善を図る。		
		5) 魅力ある学科、コース、大学院等の展開	① 魅力ある学科・コースを目指す提供授業等について検討 ② 大学院活性化に向け社会人受入れ等検討 ③ 主専攻・副専攻の在り方検討		教学マネジメント室	各学科				データサイエンス・リテラシー科目の導入を教養教育で実施する方針を決定	○	データサイエンス科目の提供を目的にWGを設置する。		
		6) 休退学者削減施策	① 担任による面談方法の改善、早期の退学希望者特定と指導の強化 ② 退学に紐づく各種データのIR分析と施策への反映		退学者対策部会	各学科 教務課	退学者の低減	総合機械20%台 建設10%台 半/全体10%台 前半	総合機械 19.7%、 建設16.0%、 全体17.5%	面談後の情報入力に不完全 入力方法共有方法を策定	△	面談後の新たな情報共有方法を試行する。		
		(2) 充実した就職支援と学生生活のサポート	1) 留学生、障がい者等、個別の対応強化及び支援制度の充実		① ふれあいルームと教職員の連携による支援の強化 悩みを抱える学生のサポート充実を図る定期的な状況把握を検討 ② 障がいのある学生への支援体制の充実 ③ 月1回の対面式で在籍管理により、問題の早期洗い出し実施 ④ ビジネスで通用する日本語能力向上にフォーカスした実践講座開講	高橋	学生課					悩みを抱える学生に対し、ふれあいルームカウンセラー、教職員が連携し、一体となり、サポートを行った。また、定期的に学生へのアンケート調査を実施し、悩みのある学生のサポートを行った。	○	ふれあいルームカウンセラー、教職員が連携し、悩みのある学生のサポートを行う。
			2) 経済支援制度の多様化による学生への支援の充実		① 新たな修学支援制度の周知とコロナ禍に対応する独自奨学金制度の検討 ② 奨学金情報のメールでの周知やホームページへの掲載。地方自治体や団体による奨学金情報を収集し、多くの情報提供推進		学生課					障害のある学生の授業への配慮の求めに対し、教職員、カウンセラーが連携し、サポートを行った。	○	障害のある学生の授業への配慮を求めた際には、ふれあいルームカウンセラー、教職員が連携し、サポートを行う。
			3) キャリア育成の充実による学生のモチベーションと卒業満足度の向上		① 2022年度以降の教養科目化を見据え、社会人基礎力育成講座の内容の変更を検討 ② 3年生が就活およびIS対象でもある事を考慮し、セミナーの実施時期・内容を検討し、学生に有益な内容となるよう方法を模索 ③ 強化合宿の実施が困難な事を想定し、前年度の実施状況を踏まえ最善策を検討する		学生課					毎月実施。4Qから決めた日時に職員が部屋に待機し、学生を集める形式に変更実施したことで、在籍確認率も向上した。	○	新年度のオリエンテーションをはじめ、在籍確認の重要性を繰り返し理解させるようにし、より在籍確認率の向上に努める。
							学生課					演習形式も組入れて全30回実施した。	○	日本語能力向上に向けた新たな方法を検討・実施する。
							学生課					4月10日で修学支援制度の説明会を行うとともに、学内で募集を行い、日本学生支援機構に推薦を行った。また、独自奨学金について、5月だけではなく、新たに秋季での募集を行った。	○	日本学生支援機構奨学金の説明会を年に2回(4月と10月)に行い、奨学金制度の周知をする。 また、独自奨学金の募集を年に2回行う。
							学生課					奨学金情報についてホームページに掲載。また、本学学生への一般の奨学金情報をまとめて、窓口にて公開した。なお、コロナ禍により経済的に困窮している学生に対し、国の「学生等の学びを継続するための緊急給付金」の募集を2回行い、181名推薦した。	○	日本学生支援機構奨学金やものづくり大学独自奨学金の情報の周知に努めるとともに、その他一般の奨学金情報の収集に努め、公開する。
				学生課						内容変更について、検討済み。次年度以降教養科目となるため、教養WGで他科目との調整を行った。	○	新1年生については、両学科同時開講のため、運営方法などの検討継続的に言い、最善の実施方法を検討する。		
				学生課						IS実施時期を考慮して就職セミナーを実施した。学生の進捗状況を踏まえセミナー内容変更なども適宜行った。	○	新型コロナウイルスの影響によって受入先企業や保護者の同意などが得られずインターンシップが延期となっている学生に対し、就職活動に支障にならないよう適宜対応する。		
				学生課						就職活動強化セミナーとして、合宿と同様に採用担当者や卒業生などに協力を要請し、学内で実施した。	○	就職活動開始の意欲向上のため、合宿を行えるよう調整するが、会場関係上実施出来なかった場合にも備えて、学生に不利益のないよう、準備を進める。		
	(3) 志願者の質の確保と定員の確保		1) アドミッション・ポリシーの明示と共有	① アドミッション・ポリシー明示、次年度入学試験に対応した修正・更新	高橋		入試課		入学者数	学部300名	学部298名	AP修正案は入試委員会承認済。過去最高の合格者数を出し健闘したが定員確保は未達。	△	引き続き志願者数の増加に努めるとともに、オープンキャンパス参加者をはじめ接触した受験生の出席率及び歩留まり率の増加に努める。
			2) 多様な入学試験の実施、学力の3要素をはじめ多面的な評価の推進	① 現行入学試験の分析・見直し、次年度入試制度の設計・計画 ② 学生募集要項等の作成、入学試験の実施			入試課		志願者数	780名	914名	次年度入試制度及び入試日程は確定済。	○	入試方式の追加。地方入試会場の増設、WEB出願の導入。
			3) 高校生対象イベント、オープンキャンパス等の充実	① オープンキャンパスの計画・実施、大学見学の受入れ ② 各種進学ガイダンスへの参画、実習体験教室等の計画・実施			入試課	オープンキャンパス参加者数	400名(高3)	462名	462名	振替受験等の受験機会の確保などコロナ対応を行った上で、入学試験を予定通り実施。	○	コロナ対策を行った上で予定通りOCを実施。高3年生参加者462名。
		4) 出身高校へのフィードバック、高大連携等の充実	① 高校等への学校訪問及び出張講義等の実施 ② 埼玉高研協議会及び工業系高大連携推進委員会等への参加、高校生インターンシップ等の受入れ、高校教員対象説明会の実施	入試課		ガイダンス面談者数	3000名	3420名	3420名	コロナで中止になったガイダンスがあったものの、積極的に参画し、面談件数は3000名を超えた。	○	コロナで中止になったガイダンスがあったものの、積極的に参画し、面談件数は3000名を超えた。		
				入試課		高校訪問件数	3000件	2891件	2891件	コロナの影響で訪問を断られる高校もあったが、積極的に訪問を実施。	○	コロナの影響で訪問を断られる高校もあったが、積極的に訪問を実施。		
				入試課						千葉県工業系情報交換会を本学で実施。高校教員対象進学説明会も予定通り実施。	○	千葉県工業系情報交換会を本学で実施。高校教員対象進学説明会も予定通り実施。		

2021年度行動計画—年度末実績(2ページ)

2022年3月末予定の進捗状況及び次年度に向けた課題
 評価は、○=順調に進んでいる、△=やや遅れている、×=あまり進んでいない

大項目	小項目	実施項目	行動計画	リーダ	主担当部署	関連部署	KPI	数値目標 (現状/年度目標/最終目標)	KPI数値	2021年度末の実績	評価	2022年度に向けた課題、発展の方向など (Vision Compass2030対応含む)		
2. 特色ある研究・社会貢献活動	(1)産学官金連携した研究・教育	1)共同研究等の研究活性化とその支援	①彩の国ビジネスアリーナをはじめ、行政や金融機関等主催展示会での大学及び産学官連携研究テーマのアピール ②研究テーマ集の作成及びこれを用いた共同研究等の受入れのための広報活動	荒木	もの研		・展示会出展回数 ・企業等訪問回数	3回 50回	3回 27回	建築再生展、さいしんBF、さいたまBA シニアマッチング会inもの大 団体23(業界3、商工14、経済6)、金融4	○	録画配信などコロナ禍での新たな情報発信		
		2)就業者等社会人のための新たな教育の検討・実施	①現場改善人材育成プログラムの実施及び2020年度実施のプログラムを含めた事業総括に基づく、今後の事業の企画立案		もの研	各学科	・人材育成プログラム実施回数	2回	2回	現場改善人材養成(初級)・6~7月 20名 建設マネジメント:1~2月 31名	○	情報メカトロニクス学科における新規案件発掘及び継続案件確保 業界全体に共通するテーマ設定が難しい (コロナ禍で情報収集不足)		
		3)科学研究費等の獲得支援	①セミナー等の実施や学長顧問によるブラッシュアップなど年間を通じた学内での科研費獲得のための支援体制の構築		もの研	各学科	・科研費申請件数	20件	10件	基盤B:2件(建設2) 基盤C:8件(総機6、建設2)	△	引き続き、学長による申請に関する相談等		
		4)知的財産の創出及び適切な活用	①職務発明等の円滑な手続き支援及び出願費用予算確保		もの研		・特許出願件数	3件	3件	建設関連3件出願	○	2022年度仕掛2件		
	(2)社会・地域・国際貢献	1)子ども大学、公開講座、リカレント教育等の継続	①連携協定締結事業等の実施(子ども大学、公開講座等) ②単発開催事業の実施(講演会、ものづくり教室等)	大垣	地域連携推進・渉外室		1)参加者数 2)満足度	1)本年度目標 ナン(コロナ禍で実施未確定のため) 2)90%以上	1)36名 2)91.1%	全6回のうち3回がコロナにより中止となったが、参加者は36名となった。総括は3/24に行う予定。 特別公開講座満足度91.1%	○	コロナ次第だが通常の項目を実施予定 コロナ次第だが通常の項目を実施予定		
		2)大学見学会、大学開放・貸出の継続	①コロナ禍終息後再開		総務課					緊急事態宣言解除後、感染対策の徹底により、貸出しを再開し、前年度を超える利用があった	○	感染対策の徹底により、施設利用の拡大を図る。		
		3)海外のものづくり人材育成プログラムの推進	①新たな海外協力の可能性の検討(コロナ禍終息後再開)							海外の感染情報の収集に努めたが、変異株の進化により、依然として終息が不透明	×	引き続き、海外の感染情報の収集に努める。		
	3. 大学運営基盤の強化	(1)価値創造に向けたブランド広報	1)入学から卒業までのPR効果の高い情報を提供する大学広報の実現	①定期的配信と報道機関との良好な関係性の構築	大垣	広報委員会、20周年記念事業推進部会		1)リリース件数 2)掲載件数	1)20件 2)30件	1)28件 2)53件	大学プレス20件+プレスリリース9件 新聞31、雑誌・Web11、テレビ・ラジオ11	○	大学一丸となった広報活動を推進していく	
			2)ブランド展開のための広報手法の開発	①学内広報に向けた計画・立案および周知活動 ②学外広報に向けた計画・立案および周知活動				PR先の開拓件数	2件	2件	ブランド説明に新入生ガイダンスを活用した他、学内外に向けたメルマガを開始	○		
			3)Webサイト、SNS等のデジタルメディアをメインとした広報活動の拡充	①リニューアルサイトの運営と改善 ②SNS運用と改善 ③サイトへの集客施策実施				1)HP新着UP件数 2)SNS新着件数 3)サイトPV数 4)直帰率	1)450件 2)SNS1200件 3)143.4万件 4)直帰率50%	1)267件 2)772件 3)114.7万件 4)65.6%	大学Webサイト新着UP件数 267件 (2022.2.28時点) インスタ 191 Twitter 338 Facebook 243 You Tube 9(広報6、入試2、教務1) TOPページから式典サイトへ直行できる仕掛けがなかったため数値が伸びていない。	△	学生募集を含む広報活動をWeb、SNS等のデジタルコンテンツに注力する	
4)高校生、高校教員、卒業生、保護者、企業等のステークホルダーに対する広報活動の強化			①ターゲット別PR企画促進				新規取り組み件数	7件	10件	高校生(学科パンフ2種、卒業生Book)、一般(寄付パンフ、公開講座チラシ)、企業(卒業生Book)	○			
5)20周年記念事業の推進			①実施計画に基づく事業等の実施 ②20周年記念事業の一環として「記念事業募金」募集広報の実施				1)参加者満足度 2)メディア掲載回数	1)60%以上 2)メディア12件	1)未調査 2)14件	式典の満足度は未調査	△			
(2)内部質保証、改革を進める組織力向上と人材育成		1)組織目標の合意形成・決定手法の確立	①会議の目的と運営課題整理、運用効率化の提案 ②判りやすい行動計画の提示と周知の仕組みづくり	大島(小塚)			総務課					手法の検討を行い、モデル会議体での試行の提案が出されたが、実施できなかった	×	モデル会議体による試行を行い、その成果を他の会議へ拡大していく。
		2)教員・職員の業績評価の確立及び適正な運用	①教職員の行動計画と連動する業績評価の仕組み作成・改善				総務課					本様式により行動計画を提示し、組織・個人の目標設定や評価時にも活用した。	○	行動計画の提示、目標設定について、引き続き点検に努める。
		3)働き方改革への取組	①デジタル等を活用した業務改善テーマの洗出し・推進				総務課					関係課ヒアリングを実施しツール活用可能な業務の洗い出しを行った。	△	自動化ツールへの適用方法を検討する。
		4)SD・FD・FSD等、教職員の研修体制の整備、向上	①SD:デジタル業務改善等の研修企画&実施 ②FD:授業アンケート・授業見学会の進め方検討と提案 ③FSD:初任者研修、大学改革、認証評価等の研修計画の整理				総務課 教務委員会	FD・SD推進委員会 FD・SD推進委員会				デジタル業務改善等の研修は実施できなかった FD研修会のテーマを授業アンケートの活用による授業改善とし、翌年度の改善計画をティーチング・ポートフォリオへ記載 新入職員研修、財務、カハナンス、ハラスメント、認証評価等の研修を6回実施した。	○	業務改善の研修を企画し実施する。 ハラスメント、業務改善等働きやすい職場づくりに必要な研修を企画する。
		5)中長期経営計画の年度行動計画の策定と内部質保証に向けたPDCA体制の確立	①行動計画でのPDCA強化の仕組みづくりと中長期計画へのフィードバック				経営戦略会議	中長期計画部会					今年度の最終報告を取りまとめたとともに、次年度の行動計画を策定する。	○
(3)持続可能な財務力と施設の向上	1)学納金及び補助金の確保、寄付金収入の受入増	①補助事業採択に向けた提案検討	大島	経営戦略会議						積極的に申請を行ったが、十分な実績を上げることができなかった。	△	改革総合支援事業の採択を目指し、早期の検討を開始する。		
		②20周年記念事業募金の受入れ促進		総務課						役員等による寄付依頼や広報活動により、幅広い分野から寄付が寄せられた。	○	寄付募集の戦略を検討する。		
	2)適正な人件費比率の確保及び一般経費の支出抑制	①運営コストの縮減	大塚	財務マネジメント室	総務課 経営戦略会議	運営コスト		2019年度比縮減額: -/5000万円/1.6億円			削減額が8,000万円となり、事業活動収支の教育活動収支差額も1億200万円の黒字となった。 ・2023年度よりドミトリ寮費の値上げを実施	○	計画通りの予算執行を継続	
		②財務状況の見える化の方策検討と財務方針コンセプト立案		財務マネジメント室	総務課 経営戦略会議						2021/6/9に全教職員を対象に財務の現状を周知するとともに、今後の財務見通しを踏まえた財務戦略について説明した。	○	将来的な施設更新・整備費を踏まえた財務戦略の立案	
	3)施設・設備修繕の中長期計画の策定・実行	①キャンパス整備10ヵ年計画の策定および実施	三原	施設設備投資計画部会	施設環境WG	施設整備費の確保	実施目標:2件以上≒300万円	2件実施			学長プロジェクト予算確保(千円)と戦略経費の削減により、現場発生材処分の捻出ができた。(400千円)	△		
		②中長期修繕計画の見直しと見える化			施設係	CD/VE件数	3件以上(≒300万円)	4件CD・VEを削減。¥6,277千円削減			戦略経費削減について4件/4件実施し、削減した予算にて予定外の工事案件費用を捻出することができた。	○	財務WGと連携しドミトリの運営強化を図り、施設整備費の負担を減らす様努める。	
		③情報システム更新に向けシンプル・スリム化&投資削減提案準備			情報基盤改革部会			1件800千円			学生会館2階学生スペースにてPC電源増強工事(800千円)を施設係予算より捻出できた。	○		
		④防災・危機管理・法令順守のための体制の整備拡充			水災対策WG	防災整備計画策定優先順位の確定	水災マニュアルの完全整備	1/5の予算確保				止水対策にて補正予算1,000千円を確保し、防水テープ40巻および簡易止水板24個を購入	△	翌年度以降も予算を確保するよう努める。